

## 仲間の輪

岐阜市立長森南中学校 3年

伏見 友花(ふしみ ともか)

皆さんは、人間関係でとても悩み、苦しかったという経験はありますか。中学1年生の時、私は友人関係にひびが入りました。小学校から仲の良かった友人ととの間に新しく加わった1人のクラスメイト。

でも、しだいにそのクラスメイトは友人と2人だけている様になり、2人の間に入れられなくなっていました。仲間外れや陰口を言わされているという日々が続きました。ある時、陰で私の友人たちに身に覚えのない悪口を私が言っていたと話していました。これを友人から聞いたとき、頭が真っ白になり、涙が止まらなくなりました。お母さんが私の異変に気づき、気付いたら私はこのことを話していました。当時の担任に相談し、一度は収まりました。しかし、前ほどではないけど、陰口や仲間外れがありました。

後期になって席が変わってからは、今まで話していた友人だけでなく、クラス内の子たちと話してみようかなと思いました。正直また同じようなことが起こったらという苦しみや不安がありました。だから、他の子と関わるのをためらっていました。あるとき、私は勇気を出して同じクラスの子と話してみました。私を受け入れてくれる子がいて、すごく嬉しかったのを覚えています。また、関わりの少なかった子と関わってよかったです。

中学2年生に進級してからは、中学1年生でいろいろな子と関わったことをきっかけに中学1年生の時より、クラスの子達と関わる様にしました。これまででは、学校で陰口を叩かれたり、仲間外れにされたりするのではないかという苦しみや、孤独感で押しつぶされそうでした。自分を見失って、人の関わりに恐怖さえ感じました。しかし、一歩大きな勇気を踏み出せた自分に対する自信やほこらしさで胸がいっぱいになりました。また、仲間の輪が広がったことへのうれしさと、安心感で包まれました。自分の居場所は、自分自身で作ることができるということを実感しました。

事情も気持ちも知っている母には、悲しい思いをさせたり、たくさん心配をかけたりしました。しかし、母と喜びやうれしさを共有できたことで、私はさらにたくさんの人との友好的な関係を築きたいと思いました。

仲間の輪を広げる大切さを学んだ私ですが、まだまだ人の関わり方に大きな不安があり、相手の気持ちが分かってあげられず、怒らせてしまうこともあります。また、今でも中学一年生で経験した仲間外れや陰口などの記憶がふと蘇ることがあります。

しかし、色々な人の関わり、仲間の輪を広げる大切さを実感する出来事もあります。中学3年生になって、スポーツ大会では、自分から関わった事で、仲間の良さや優しさを見つけることができました。仲間からもほげまされたり、助けてもらったりしました。「ドンマイ。」「大丈夫だよ。」という温かい言葉がけが仲間の輪の中で広がりました。また、修学旅行では、仲間との関わりの中で、仲間の意外な一面を見つけることができました。

自分の中にある不安や恐怖よりも、自分から仲間の輪を広げようとする勇気や、少しの一步が大きく私の心を成長させてくれました。だから、自分をほめてあげたいし、自信がつきました。

最後に、人間関係でとても悩み、苦しいという経験はだれにでもあると思います。今、悩んでいるという人もいるかもしれません。想像もしていないトラブルが起きるかもしれません。しかし、自分の世界を広げてみませんか。ほんの少していいのです。少しの一步が仲間の輪をつくり、自分自身を大きく成長させるかもしれません。